

□議員名：岡山 明

1 熱中症等の対策について

論点	今年の熱中症の発症状況はどうか。
回答	宇部・山陽小野田消防局での熱中症による緊急搬送数は、4月から8月末までの管内の搬送者数は21名。昨年は24名。市内では今年8月に60代男性が熱中症により亡くなったが、統計のある2009年からは初めてである。

論点	熱中症対策に対する市の取組はどうか。
回答	予防が重要だと考えており、毎年6月ごろから、市広報などを通じて熱中症の正しい知識の普及啓発・注意喚起を行っている。市ホームページにおいては、熱中症を予防するための暑さ指数が掲載してある環境省熱中症情報へのリンクも貼り付けてある。

論点	夜間での緊急対応として、小児緊急電話相談事業があるが、大人の緊急電話相談事業の設置の考えはどうか。
回答	山口県と山口県医師会が、山口県小児救急電話#8000番を設置しているが、大人の緊急電話相談は実施されていない。県全体の事業として考えるのがふさわしいと思う。今後も県や医師会、他市の動向等も注視していきたいと考えている。

2 避難所の運営について

論点	市内58か所ある災害時の避難所の設置基準は。また、運営管理マニュアルの作成状況はどうか。
回答	東日本大震災における教訓を踏まえ、現在では災害の危険から逃れるための場所として、高潮、洪水、土砂災害、津波、そして、地震という災害の種類ごとに安全性について、一定の基準を満たす施設または場所を指定緊急避難場所としている。

論点	運営管理マニュアルの見直し等、安全・安心の避難所へ改善は進められているか。
回答	平成28年2月に避難所開設・運営管理マニュアル（暫定版）を策

	定、現在は熊本における震災を受け、このマニュアルが大規模災害による長期避難生活にも対応できるかどうかを検証しながら、完成版の策定に向けて見直し作業を進めている。
--	--

論点	地域住民に対し、避難場所等の周知徹底が図られているかどうか。
回答	市の広報には、緊急避難場所と避難所の違いについて説明するとともに、避難場所の一覧を掲載し、津波、高潮、洪水、土砂災害、そして地震という災害別に利用できるか、できないかについて、○×方式で明示。まずは、災害に備えての確認を図っている。

3 スポーツによるまちづくりについて

論点	公共スポーツ施設の運用状況はどうか。
回答	平成21年度から市内体育施設、12施設あるが、指定管理を実施している。民間のノウハウを活用し、利用者に対するサービス向上に努めるとともに、利用者の意見、要望把握に努め、施設利用の改善を図っている。スポーツ施設の利用状況は、大体毎年20万人前後の利用がある。

論点	現在の弓道場の施設環境は、雨漏り、床板の抜け落ちの可能性があり、年間契約利用者等に対し、施設の維持管理について問題はないのか。
回答	弓道大会に出席し、直接、利用者あるいは役員の方々から、床とか屋根の雨漏りの補修等の要望は聞いている。実態も承知している。築後約30年余り経過しており、かなり老朽化が進んでいる。できるだけ弓道場の整備には努めていきたい。

論点	これからの公共スポーツ施設のあり方についてどうか。
回答	公共スポーツ施設のあり方については、施設整備に努めるとともに、学校や民間のスポーツ施設の活用を図り、スポーツ施設のあり方を十分に考えながら、スポーツによるまちづくり、推進計画の具現化に努め、本市のスポーツ振興や活性化を図りたい。